

研究指導教員の決定と研究指導の方法

量子放射線工学分野 博士前期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮して研究課題を提案し、学生と相談し同意を得て決定した研究テーマに関して研究指導を行う。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、シラバスと履修モデルを参考にして個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名以上を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

大学院博士前期課程入学者の研究指導教員決定に関するプロセスは以下のとおりである。

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載するとともに、試験当日に指導を希望する教員を申し出る。
2. 入試時の面談及び出願書類の志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、分野教員会議において研究指導教員を決定する。
第1 希望の教員への受入ができない場合、志望調査の結果及び入学試験の成績を考慮した上で、他の教員の中から研究指導教員を決定する。
3. 入学時のオリエンテーションまでに決定し、本人に連絡する。

■副指導教員制度

1. 副指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副指導教員は、学生ごとに1名又は2名を決定する。

■研究指導の方法

本分野の標準的な研究指導計画は、以下の1～6のとおりである。研究指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次4月～6月）
 - (1) 学生は、研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究指導教員とともに研究計画を立案する。
 - (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
 - (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、

課程修了までの研究指導計画を1年ごとに記載し、学生と副指導教員に明示する。

(4) 研究指導教員は、研究指導計画書を分野長に提出する。

2. 研究の遂行（1年次6月～2年次11月）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。2年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等およびデータ解析に関する指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
- (3) 研究指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。

3. 研究経過の中間報告（1年次12月）

中間報告会を開催し、研究指導教員と分野教員が参加することで、学生の研究経過を分野教員全員で確認する。

4. 修士論文の作成（2年次12月～2月）

- (1) 学生は研究成果をもとに修士論文をまとめる。
- (2) 研究指導教員は修士論文の構成をはじめ全般について指導する。

5. 修士論文の提出（2年次2月上旬）

学生は修士論文を指定された期日までに分野長に提出する。

6. 研究指導報告書の提出（2年次2月下旬）

研究指導教員は「研究指導報告書」を記載して分野長に提出する。

研究指導教員の決定と研究指導の方法

量子放射線工学分野 博士後期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮して研究課題を提案し、学生と相談し同意を得て決定した研究テーマに関して研究指導を行う。
2. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名以上を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

大学院博士後期課程入学者の研究指導教員決定に関するプロセスは以下のとおりである。

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の入学願書に「指導を希望する教員名」、志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。
2. 入試時の面談及び出願書類の入学願書に記載の「指導を希望する教員名」および志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、分野教員会議において研究指導教員を決定する。
3. 入学時のオリエンテーションまでに決定し、本人に連絡する。

■副指導教員制度

1. 副指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副指導教員は、学生ごとに1名又は2名を決定する。

■研究指導の方法

本分野の標準的な研究指導計画は、以下の1～5のとおりである。研究指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次4月～6月）
 - (1) 学生は、研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究指導教員とともに研究計画を立案する。
 - (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
 - (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、課程修了までの研究指導計画を1年ごとに記載し、学生と副指導教員に明示する。

- (4) 研究指導教員は、研究指導計画書を分野長に提出する。
2. 研究の遂行（1年次6月～3年次9月）
 - (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。2年次および3年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
 - (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等およびデータ解析に関する指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
 - (3) 研究指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。
3. 博士論文の作成（3年次10月～12月）
 - (1) 学生は研究成果をもとに博士論文をまとめる。
 - (2) 研究指導教員は、博士論文の構成をはじめ、論文全般について指導する。
4. 博士論文の提出（3年次1月上旬）

学生は博士論文を指定した期日までに提出する。
5. 研究指導報告書の提出（3年次2月下旬）

教員は「研究指導報告書」を記載して提出する。